特集 すいよう

日本の伝統文化 囲碁・将棋

日本共産党と「しんぶん赤旗」は、日本の伝統文化である囲碁・将棋の発展と普及に貢献するために一貫してとりくんできました。その柱がアマチュア大会「しんぶん赤旗全国囲碁・将棋大会」（赤旗名人戦）の開催と、プロ公式若手棋戦「新人王戦」を「しんぶん赤旗」が主催していることです。その歴史と特徴をみてみましょう。（原田浩一朗）

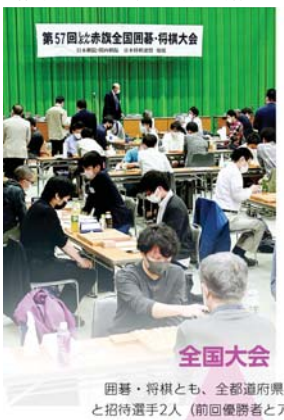
発展・普及に貢献する「しんぶん赤旗」

アマチュア 裾野広く 赤旗名人戦

全国9000人超で大会

地区大会から開催する、もっとも裾野の広い、屈指のアマチュア大会の一つです。「初心者から強豪まで、だれでも参加できます」のコンセプトを掲げ、地区大会は、多くの場合、A級（都道府県大会への代表者決定戦）のほか、B級（2級から三段）、C級（3級以下）の3ランクで開催しています。

囲碁と将棋の大会を、同時に開催するのも、ユニークです。



3年ぶりに開かれた第57回しんぶん赤旗全国囲碁・将棋大会＝2022年11月12日、覚本部

第54回（2017年）将棋赤旗名人となり、アマ強豪として活躍し、棋士編入試験に合格して、4月からプロ棋士になった小山怜央さんから、ことしの大会参加者へのメッセージが寄せられました。

小学生から私も参加

プロ棋士 小山怜央さん

赤旗名人戦は、私も小学生のころから参加しており、とても思い出になった大会という印象でした。皆様が力を出し切って、良い将棋が指せることを願っております。

大会です。地区予選から始まるのが一つの特徴で、全国優勝までの道のりが長い

全国大会

囲碁・将棋とも、全都道府県の代表54人と招待選手2人（前回優勝者とアマチュア強豪の女性1人）の計56人が予選リーグをおこない、決勝トーナメント進出者28人を決定。ベスト8まで1日目で決定。

2日目は準々決勝から決勝戦、3位決定戦をおこないます。

都道府県大会（A・B級）

47都道府県で、囲碁は795人、将棋は1263人の参加（いずれもB級等の参加を含む）で開催。

合計9086人

地区大会（A・B・C級）

囲碁は全国227会場で2816人が参加。将棋は235会場で4212人が参加。（いずれもB、C級も含む）

※コロナ禍前の2019年第56回大会を例に

今年は第58回大会

ことしの大会は、全国大会は11月11日（土）、12日（日）と、東京都渋谷区の日本共産党本部で開催されます。地区大会からの開催は、4年ぶり。おおむね、7月から10月にかけて地方大会が開かれます。

詳しくはこちらから。QRコードで簡単アクセス。

若手棋士の「登竜門」 新人王戦

あの人も「新人王」

若手棋戦として、将棋は1970年、囲碁は1976年から創設されました。「若手棋士の登竜門」と目されています。

現在の出場資格は、囲碁は25歳以下（予選開催年の9月1日時点）、六段以下。ただし、新人王のタイトル獲得は1回限り（第32期より）。

将棋は26歳以下（予選開催年の10月1日時点）、六段以下（タイトル戦経験者は除く）。

☆関航太郎 現天元

☆野月虎丸 現名人・十段

許家元

☆一力遼 現棋聖

村川大介

☆井山裕太 現本因坊・王座・碁聖

張栩

山下敬吾

依田紀基

王立誠

小林光一

囲碁新人王戦優勝者リスト

期	年	優勝者	七大タイトル期数
47	2022	酒井　佑規	
46	21	外柳　是閏	
45	20	関　航太郎	2
44	19	孫　　喆	
43	18	広瀬　優一	
42	17	芝野　虎丸	6
41	16	大西　竜平	
40	15	許　　家元	3
39	14	一力　　遼	4
38	13	富士田明彦	
37	12	金沢　　真	
36	11	村川　大介	2
35	10	白石　勇一	
34	09	李　　沂修	
33	08	内田　修平	
32	07	井山　裕太	57
31	06	松本　武久	
30	05	金　　秀俊	
29	04	溝上　知親	
28	03	蘇　　耀国	
27	02	張　　栩	24
26	01	山下　敬吾	14
25	00	山下　敬吾	
24	1999	山下　敬吾	
23	98	山下　敬吾	
22	97	山田規三生	1
21	96	高尾　紳路	8
20	95	三村　智保	
19	94	三村　智保	
18	93	結城　　聡	2
17	92	小松　英樹	
16	91	趙　　善津	1
15	90	依田　紀基	12
14	89	依田　紀基	
13	88	小松　英樹	
12	87	依田　紀基	
11	86	依田　紀基	
10	85	宮沢　吾朗	
9	84	今村　俊也	
8	83	依田　紀基	
7	82	片岡　　聡	2
6	81	王　　立誠	11
5	80	宮沢　吾朗	
4	79	石田　　章	
3	78	石田　　章	
2	77	小林　光一	35
1	76	小林　光一	

☆藤井聡太 現竜王・名人・王位・叡王・棋王・王将・棋聖

☆永瀬拓矢 現王座

佐藤天彦

広瀬章人

渡辺明

森内俊之

羽生善治

将棋新人王戦優勝者リスト

期	年	優勝者	八大タイトル期数
53	2022	服部慎一郎	
52	21	伊藤　　匠	
51	20	池永　天志	
50	19	高野　智史	
49	18	藤井　聡太	15
48	17	増田　康宏	
47	16	増田　康宏	
46	15	菅井　竜也	1
45	14	阿部　光瑠	
44	13	都成　竜馬	
43	12	永瀬　拓矢	5
42	11	佐藤　天彦	3
41	10	阿部健治郎	
40	09	広瀬　章人	2
39	08	佐藤　天彦	
38	07	村山　慈明	
37	06	糸谷　哲郎	1
36	05	渡辺　　明	31
35	04	山崎　隆之	
34	03	田村　康介	
33	02	木村　一基	1
32	01	松尾　　歩	
31	00	山崎　隆之	
30	1999	藤井　　猛	3
29	98	三浦　弘行	1
28	97	藤井　　猛	
27	96	藤井　　猛	
26	95	丸山　忠久	3
25	94	丸山　忠久	
24	93	森内　俊之	12
23	92	佐藤　秀司	
22	91	森内　俊之	
21	90	森下　　卓	
20	89	日浦　市郎	
19	88	羽生　善治	99
18	87	森内　俊之	
17	86	塚田　泰明	1
16	85	井上　慶太	
15	84	小野　修一	
14	83	中村　　修	2
13	82	小野　修一	
12	81	田中　寅彦	1
11	80	森　　信雄	
10	79	青野　照市	
9	78	小阪　　昇	
8	77	森安　秀光	1
7	76	石田　和雄	
6	75	森安　秀光	
5	74	青野　照市	
4	73	森安　秀光	
3	72	石田　和雄	
2	71	若松　政和	
1	70	山口　英夫	

歴代新人王戦優勝者（新人王）のうち、2001年以降の優勝者で、囲碁は七大タイトル（棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖、十段）、将棋は八大タイトル（竜王、名人、王位、王座、棋王、叡王、王将、棋聖）獲得2期以上の棋士に、顔写真を付けました。

現在のタイトル保持者は、写真の名前に☆マークを付け、タイトルを表示しています。

また、2000年以前の優勝者のうち、タイトル獲得10期以上の棋士は、「レジェンド」（生きた伝説の人）として、写真を付けました。

なお、新人王戦で複数回優勝している棋士については、最新の優勝のところにタイトル獲得期数を表示しています。

第1回大会の囲碁決勝戦＝1983年10月20日、東京・多摩湖畔

しんぶん赤旗 囲碁・将棋大会略年表

◆1963年10月 第1回大会 「アカハタ日曜版第1回勤労者囲碁・将棋大会」として開催。

全国大会は、1日目を地方代表32人が参加して東京・将棋会館でおこない、2日目の決勝戦と3位決定戦を、東京・多摩湖畔の「第5回アカハタまつり」会場でおこないました。

★1970年 将棋新人王戦創設

◆1973年 第11回大会 これ以降、日本棋院、関西棋院、日本将棋連盟から正式な後援を受けることになりました。

◆1975年 第13回大会 「赤旗日曜版第13回囲碁・将棋大会」に名称を変更。

「勤労者」を削除。参加者層が広がり、学生などから「勤労者でないと参加できない」との問い合わせが相次いだため。

★1976年 囲碁新人王戦創設

◆1979年 第17回大会 各県代表制に発展。主催が日曜版から日刊紙に移り、「赤旗囲碁・将棋大会」の名称になりました。

◆1993年 第31回大会 全国大会優勝者の赤旗名人に六段の免状授与が認められ、名実ともにアマ最高レベルの大会に。

◆1995年 第33回大会 この大会以降、将棋優勝者（将棋赤旗名人）が、新人王戦に参加する道が開かれました。

◆2011年 3月の東日本大震災の救援復興活動に全力をあげるために開催を中止。

◆2018年 第55回大会 全国大会の会場が、日本共産党本部になりました。

◆2020年、21年 新型コロナウイルス感染拡大により、開催を中止。

◆2022年 第57回大会 新型コロナ感染対策を徹底し、地区大会を省略し、都道府県大会から開催。

囲碁優勝者（囲碁赤旗名人）が新人王戦に参加できることになりました。

レイアウト　丸山裕子